

II 調查結果

1 男女平等意識について

問1 あなたは「男は仕事、女は家庭」という考え方についてどのように思いますか。
(〇は1つ)

[%]

	全体 (906)	女性 (524)	男性 (340)	どちらとも いえない (7)
同感する	3.2	1.9	5.2	0.0
どちらともいえない	30.6	29.1	34.1	14.0
同感しない	64.9	68.8	58.2	71.4
わからない	1.1	0.0	2.3	14.0

「同感しない」が64.9%と、「同感する」(3.2%)を大きく上回った。前回調査の「同感しない」は50.4%であった。

[性・年代別]

上段：女性 [%]

下段：男性 [%]

	全体	10歳代	20歳代	30歳代	40歳代	50歳代	60歳代
同感する	1.9	0.0	0.0	2.9	3.6	0.7	2.1
	5.2	0.0	3.3	0.0	8.3	9.2	3.6
どちらともいえない	29.1	23.5	15.8	22.1	35.7	32.4	29.0
	34.1	25.0	36.7	39.5	37.5	30.3	32.4
同感しない	68.8	76.5	84.2	75.0	60.7	66.9	69.0
	58.2	75.0	58.7	58.1	52.8	56.6	62.2
わからない	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	2.3	0.0	3.3	2.3	1.4	3.9	1.8

女性の場合、全ての年代で「同感しない」が60%を超え、男性の場合は半数を超えている。

前回調査と比較しても、男女全ての年代で「同感しない」の数値が伸びる結果となった。(女性52.3%→68.8%、男性48.0%→58.2%)

問2 あなたは、次の（ア）～（ケ）について、男女の地位は平等になっていると思いますか。それぞれの項目ごとに、あてはまるものを選んでください。

[%]

(n=906)	男性優遇 (計)		平等である	女性優遇 (計)		わからない	無回答	男性優遇 (計)	女性優遇 (計)
	男性の方が 非常に優遇されている	どちらかといえば 男性が優遇されている		女性が優遇されている どちらかといえば	女性の方が 非常に優遇されている				
(ア) 家庭生活の中で	10.6	40.0	35.3	6.6	1.1	5.6	0.0	50.6	7.7
(イ) 地域社会の中で	9.1	45.6	30.2	9.8	1.4	7.7	1.4	54.7	11.2
(ウ) 学校教育の場で	3.6	20.8	52.9	4.3	0.7	17.0	0.8	24.4	5.0
(エ) 職場の中で	16.3	39.0	27.5	6.6	1.5	7.8	1.2	55.3	8.1
(オ) 法律や制度の中で	11.7	38.9	28.9	6.7	1.1	11.5	1.2	50.6	7.8
(カ) 政治の場で	39.7	39.6	11.5	1.0	0.3	6.8	1.0	79.3	1.3
(キ) 社会通念・習慣・ しきたりなど	29.4	51.0	11.4	2.1	0.2	5.6	0.3	80.4	2.3
(ク) 人生を決める 選択肢や自由さ	17.0	45.4	27.9	3.1	0.6	5.5	0.6	62.4	3.7
(ケ) 社会全体でみた場合	14.3	59.6	14.7	2.6	0.6	7.6	0.6	73.9	3.2

前回の調査同様、全ての項目で「男性優遇（計）」が、「女性優遇（計）」を上回り、さらに3～10ポイント上昇する結果となった。

「平等である」に注目すると、「学校教育の場で」の項目が52.9%と半数を超えているものの、前回の61.9%よりは減少している。

[性別]

上段：女性 [%]

下段：男性 [%]

	男性優遇 (計)		平等 である	女性優遇 (計)		わからない	無 回 答	男性優 遇 (計)	女性優 遇 (計)
	男性の 方が 非常 に優 遇さ れて いる	ど ち ら か と い え ば 男 性 が 優 遇 さ れ て い る		ど ち ら か と い え ば 女 性 が 優 遇 さ れ て い る	女 性 の 方 が 非 常 に 優 遇 さ れ て い る				
(女性:540、男性:344)									
(ア) 家庭生活の中で	13.9 4.7	45.2 32.3	30.9 43.3	3.5 11.0	0.6 1.7	5.2 6.4	0.7 0.6	59.1 37.0	4.1 12.7
(イ) 地域社会の中で	12.8 7.8	52.8 41.6	19.6 34.0	3.9 9.3	0.6 0.9	9.4 5.8	0.9 0.6	65.6 49.4	4.5 10.2
(ウ) 学校教育の場で	4.1 2.6	23.0 17.2	48.9 59.6	4.1 4.7	0.4 0.9	18.9 14.5	0.7 0.6	27.1 19.8	4.5 5.6
(エ) 職場の中で	19.4 11.0	40.7 36.0	25.4 31.1	3.7 11.6	0.4 2.9	9.1 6.4	1.3 0.9	60.1 47.0	4.1 14.5
(オ) 法律や制度の中で	15.2 6.1	43.3 30.8	21.7 41.3	4.4 10.2	0.4 2.0	13.5 9.0	1.5 0.6	58.5 36.9	4.8 12.2
(カ) 政治の場で	44.1 32.6	38.9 41.6	6.7 18.6	0.6 1.7	0.0 0.6	8.7 4.4	1.1 0.6	83.0 74.2	0.6 2.3
(キ) 社会通念・習慣・ しきたりなど	33.7 22.4	50.2 53.5	8.3 15.1	0.7 4.4	0.0 0.3	6.7 4.4	0.4 0.0	83.9 75.9	0.7 4.7
(ク) 人生を決める 選択肢や自由さ	20.7 11.3	45.9 44.2	24.3 33.7	2.6 4.1	0.2 0.9	5.6 5.8	0.7 0.0	66.6 55.5	2.8 5.0
(ケ) 社会全体でみた場合	17.8 9.0	62.2 55.8	10.0 21.8	1.1 5.2	0.2 0.6	8.1 7.3	0.6 0.3	80.0 64.8	1.3 5.8

性別でも、「学校教育の場で」は「平等である」が女性 48.9%、男性 59.6%と高くなっている。

前回調査と比較すると、男性が「政治の場」について男性優遇と考える割合が、59.4%→74.2%と大きく増加している。また、どの項目においても、女性の方が男性優遇と回答する割合は高く、男女の地位の平等意識に差が生じていることがわかる結果となった。

[性・年代別]
 (ア) 家庭生活の中で

[%]

(n=884)	男性優遇 (計)		平等 である	女性優遇 (計)		わから ない	無回 答	男性優 遇 (計)	女性優 遇 (計)
	男性の 方が 非常 に優 遇さ れて いる	ど ち ら か と い え ば 男 性 が 優 遇 さ れ て い る		女 性 が 優 遇 さ れ て い る	ど ち ら か と い え ば 女 性 が 優 遇 さ れ て い る				
全体	10.6	40.0	35.3	6.6	1.1	5.6	0.8	50.6	7.8
女性全体 (540)	13.9	45.2	30.9	3.5	0.6	5.2	0.7	59.1	4.1
10歳代 (17)	5.9	41.2	35.3	11.8	0.0	0.0	5.9	47.1	11.8
20歳代 (39)	10.3	48.7	33.3	2.6	0.0	5.1	0.0	59.0	2.6
30歳代 (73)	12.3	35.6	39.7	2.7	1.4	6.8	1.4	47.9	4.1
40歳代 (114)	18.4	42.1	21.9	7.0	1.8	8.8	0.0	60.5	8.8
50歳代 (147)	17.0	45.6	28.6	2.7	0.0	5.4	0.7	62.6	2.7
60歳代 (148)	10.1	50.7	35.1	1.4	0.0	2.0	0.7	60.8	1.4
男性全体 (344)	4.7	32.3	43.3	11.0	1.7	6.4	0.6	37.0	12.7
10歳代 (8)	0.0	25.0	37.5	25.0	0.0	12.5	0.0	25.0	25.0
20歳代 (30)	6.7	16.7	33.3	26.7	3.3	10.0	3.3	23.4	30.0
30歳代 (43)	2.3	20.9	39.5	20.9	0.0	16.3	0.0	23.2	20.9
40歳代 (73)	4.1	26.0	53.4	9.6	2.7	4.1	0.0	30.1	12.3
50歳代 (76)	6.6	26.3	50.0	6.6	1.3	7.9	1.3	32.9	7.9
60歳代 (114)	4.4	49.1	36.8	6.1	1.8	1.8	0.0	53.5	7.9

男性優遇（計）の割合に、男女で大きな差があった。また、男性の10～30歳代は女性優遇（計）の割合が他の世代や女性全体と比べると高くなっていることがわかる。

(イ) 地域社会の中で

[%]

(n=884)	男性優遇 (計)		平等 である	女性優遇 (計)		わからない	無 回答	男性優遇 (計)	女性優遇 (計)
	男性の方が 非常に優遇 されている	どちらかといえ ば男性が優遇 されている		女性の方が 非常に優遇 されている	どちらかといえ ば女性 が優遇されて いる				
全体	9.1	45.6	30.2	9.8	1.4	7.7	1.4	54.7	11.2
女性全体 (540)	12.8	52.8	19.6	3.9	0.6	9.4	0.9	65.6	4.5
10歳代 (17)	5.9	58.8	23.5	5.9	0.0	5.9	0.0	64.7	5.9
20歳代 (39)	12.8	51.3	20.5	5.1	0.0	10.3	0.0	64.1	5.1
30歳代 (73)	11.0	42.5	21.9	5.5	4.1	12.3	2.7	43.5	9.6
40歳代 (114)	15.8	45.6	21.1	4.4	0.0	13.2	0.0	61.4	4.4
50歳代 (147)	12.9	53.7	21.1	4.8	0.0	6.8	0.7	66.6	4.8
60歳代 (148)	12.2	61.5	15.5	1.4	0.0	8.1	1.4	73.7	1.4
男性全体 (344)	7.8	41.6	34.0	9.3	0.9	5.8	0.6	49.4	15.8
10歳代 (8)	0.0	50.0	25.0	12.5	0.0	12.5	0.0	50.0	12.5
20歳代 (30)	3.3	40.0	30.0	13.3	0.0	10.0	3.3	43.3	13.3
30歳代 (43)	11.6	25.6	39.5	9.3	0.0	14.0	0.0	37.2	9.3
40歳代 (73)	4.1	39.7	35.6	11.0	1.4	8.2	0.0	43.8	12.4
50歳代 (76)	11.8	32.9	39.5	10.5	2.6	1.3	1.3	44.7	13.1
60歳代 (114)	7.9	54.4	28.9	6.1	0.0	2.6	0.0	62.3	6.1

男女共に「どちらかといえば男性が優遇されている」が最も高かった。

前回調査と比較すると、「男性優遇 (計)」の回答が増加しているが、それは10～20歳代の数値の大きな上昇が要因となっている。

(ウ) 学校教育の場で

[%]

(n=884)	男性優遇 (計)		平等である	女性優遇 (計)		わからない	無回答	男性優遇 (計)	女性優遇 (計)
	男性の方が 非常に優遇されている	どちらかといえば 男性が優遇されている		女性の方が 非常に優遇されている	どちらかといえば 女性が優遇されている				
全体	3.6	20.8	52.9	4.3	0.7	17.0	0.8	24.4	5.0
女性全体 (540)	4.1	23.0	48.9	4.1	0.4	18.9	0.7	27.1	4.5
10歳代 (17)	5.9	11.8	70.6	5.9	0.0	5.9	0.0	17.7	5.9
20歳代 (39)	7.7	20.5	41.0	7.7	0.0	23.1	0.0	28.2	7.7
30歳代 (73)	0.0	20.5	52.1	4.1	0.0	23.3	0.0	20.5	4.1
40歳代 (114)	7.0	20.2	50.9	7.0	0.9	14.0	0.0	27.2	7.9
50歳代 (147)	4.8	23.1	48.3	2.7	0.7	19.0	1.4	27.9	3.4
60歳代 (148)	2.0	28.4	45.9	2.0	0.0	20.3	1.4	30.4	2.0
男性全体 (344)	2.6	17.2	59.6	4.7	0.9	14.5	0.6	19.8	5.6
10歳代 (8)	0.0	25.0	50.0	25.0	0.0	0.0	0.0	25.0	25.0
20歳代 (30)	0.0	13.3	60.0	10.0	0.0	16.7	0.0	13.3	10.0
30歳代 (43)	2.3	7.0	62.8	0.0	0.0	27.9	0.0	9.3	0.0
40歳代 (73)	2.7	13.7	54.8	9.6	0.0	17.8	1.4	16.4	9.6
50歳代 (76)	5.3	17.1	63.2	2.6	2.6	9.2	0.0	22.4	5.2
60歳代 (114)	1.8	23.7	59.6	1.8	0.9	11.4	0.9	25.5	2.7

男性の全年代で、「平等である」と回答した人が50～60%以上と半数を占めているが、女性の場合は前回調査よりも少なくなっている。(前回調査では、女性の全年代が半数を超えていた。)

(エ) 職場の中で

[%]

(n=884)	男性優遇 (計)		平等 である	女性優遇 (計)		わからない	無 回 答	男性優 遇 (計)	女性優 遇 (計)
	男性の 方が 非常 に優 遇さ れて いる	ど ち ら か と い え ば 男 性 が 優 遇 さ れ て い る		女 性 が 優 遇 さ れ て い る	ど ち ら か と い え ば 女 性 が 優 遇 さ れ て い る				
全体	16.3	39.0	27.5	6.6	1.5	7.8	1.2	62.3	8.5
女性全体 (540)	19.4	40.7	25.4	3.7	0.4	9.1	1.3	60.1	4.1
10歳代 (17)	17.6	35.3	23.5	0.0	0.0	23.5	0.0	52.9	0.0
20歳代 (39)	7.7	35.9	35.9	7.7	2.6	10.3	0.0	43.6	10.3
30歳代 (73)	15.1	31.5	31.5	9.6	1.4	9.6	1.4	46.6	11.0
40歳代 (114)	26.3	28.9	32.5	1.8	0.0	9.6	0.9	55.2	1.8
50歳代 (147)	19.0	41.5	23.8	3.4	0.0	11.6	0.7	60.5	3.4
60歳代 (148)	20.3	54.7	16.2	2.0	0.0	4.1	2.7	75.0	2.0
男性全体 (344)	11.0	36.0	31.1	11.6	2.9	6.4	0.9	47.0	14.5
10歳代 (8)	12.5	37.5	25.0	0.0	0.0	25.0	0.0	50.0	0.0
20歳代 (30)	13.3	26.7	26.7	16.7	3.3	13.3	0.0	40.0	20.0
30歳代 (43)	4.7	34.9	25.6	11.6	4.7	18.6	0.0	39.6	16.3
40歳代 (73)	15.1	32.9	32.9	9.6	6.8	2.7	0.0	48.0	16.4
50歳代 (76)	10.5	39.5	30.3	14.5	2.6	1.3	1.3	50.0	17.1
60歳代 (114)	10.5	38.6	34.2	10.5	0.0	4.4	1.8	49.1	10.5

女性の60.1%、男性の47.0%が、「男性優遇（計）」と回答している。

前回調査と比較すると、性別問わず10～30歳代で変化が生じ、「男性優遇（計）」の回答が減少し、「平等である」の回答が増加した。

(オ) 法律や制度の中で

[%]

(n=884)	男性優遇 (計)		平等 である	女性優遇 (計)		わからない	無 回答	男性 優遇 (計)	女性 優遇 (計)
	男性の 方が 非常に 優遇さ れてい る	どちら かとい えは 男性が 優遇さ れてい る		女性 が優 遇さ れて いる	女性 の方 が 非 常に 優 遇さ れて いる				
全体	11.7	38.9	28.9	6.7	1.1	11.5	1.2	50.6	7.8
女性全体 (540)	15.2	43.3	21.7	4.4	0.4	13.5	1.5	58.5	4.8
10歳代 (17)	17.6	41.2	17.6	0.0	0.0	23.5	0.0	58.8	0.0
20歳代 (39)	20.5	25.6	23.1	0.0	0.0	28.2	2.6	46.1	0.0
30歳代 (73)	12.3	42.5	15.1	11.0	1.4	17.8	0.0	54.8	12.4
40歳代 (114)	14.9	41.2	21.9	8.8	0.0	13.2	0.0	56.1	8.8
50歳代 (147)	15.5	48.3	19.0	3.4	0.7	11.6	2.0	63.8	4.1
60歳代 (148)	15.0	45.3	27.7	0.7	0.0	8.1	2.7	60.3	0.7
男性全体 (344)	6.1	30.8	41.3	10.2	2.0	9.0	0.6	36.9	12.2
10歳代 (8)	0.0	25.0	25.0	25.0	12.5	12.5	0.0	25.0	37.5
20歳代 (30)	3.3	30.0	40.0	10.0	3.3	13.3	0.0	33.3	13.3
30歳代 (43)	9.3	20.9	25.6	14.0	0.0	25.6	4.7	30.2	14.0
40歳代 (73)	5.5	28.8	38.4	13.7	1.4	12.3	0.0	34.3	15.1
50歳代 (76)	9.2	28.9	47.4	7.9	3.9	2.6	0.0	38.1	11.8
60歳代 (114)	4.4	37.7	46.5	7.0	0.9	3.5	0.0	42.1	7.9

女性は、「男性優遇 (計)」と回答した人が、58.5%で最も多く (男性の回答は 36.9%)、男性は「平等である」と回答した人が 41.3%と最も多い (女性の回答は 21.7%)。

こちらは前回調査時も同様であり、男女で平等意識の差が生じている。

(カ) 政治の場で

[%]

(n=884)	男性優遇 (計)		平等 である	女性優遇 (計)		わからない	無回答	男性優遇 (計)	女性優遇 (計)
	男性の方が 非常に優遇 されている	どちらか といえ ば男性が 優遇され ている		女性 が優遇 されて いる	女性 の方が 非常に 優遇さ れている				
全体	39.7	39.6	11.5	1.0	0.3	6.8	1.0	79.3	1.3
女性全体 (540)	44.1	38.9	6.7	0.6	0.0	8.7	1.1	83.0	0.6
10歳代 (17)	41.2	35.3	5.9	0.0	0.0	17.6	0.0	76.5	0.0
20歳代 (39)	38.5	43.6	7.7	0.0	0.0	10.3	0.0	82.1	0.0
30歳代 (73)	38.4	39.7	6.8	0.0	0.0	13.7	1.4	78.1	0.0
40歳代 (114)	49.1	30.7	9.6	0.9	0.0	9.6	0.0	79.8	0.9
50歳代 (147)	47.6	38.1	2.7	0.7	0.0	10.2	0.7	85.7	0.7
60歳代 (148)	41.2	45.3	8.1	0.7	0.0	2.0	2.7	86.5	0.7
男性全体 (344)	32.6	41.6	18.6	1.7	0.6	4.4	0.6	74.2	2.3
10歳代 (8)	12.5	50.0	25.0	0.0	0.0	12.5	0.0	62.5	0.0
20歳代 (30)	30.0	26.7	30.0	3.3	3.3	6.7	0.0	56.7	6.6
30歳代 (43)	34.9	37.2	18.6	2.3	0.0	7.0	0.0	72.1	2.3
40歳代 (73)	28.8	46.6	16.4	1.4	0.0	6.8	0.0	75.4	1.4
50歳代 (76)	31.6	47.4	13.2	2.6	1.3	2.6	1.3	79.0	3.9
60歳代 (114)	36.8	39.5	20.2	0.9	0.0	1.8	0.9	76.3	0.9

「男性優遇 (計)」と回答した人が、男女共に多い。この項目では、「男性の方が非常に優遇されている」の回答が他の項目と比べ多くなっている。

「男性優遇 (計)」を前回調査と比較すると、女性 77.8%→83.0%、男性 59.4%→74.2%となったことから、政治の場において、「男性が優遇されている」意識が高くなっていることがうかがえる。

(キ) 社会通念・習慣・しきたりなどで

[%]

(n=884)	男性優遇 (計)		平等である	女性優遇 (計)		わからない	無回答	男性優遇 (計)	女性優遇 (計)
	男性の方が 非常に優遇されている	どちらかといえば 男性が優遇されている		女性の方が 非常に優遇されている	どちらかといえば 女性が優遇されている				
全体	29.4	51.0	11.4	2.1	0.2	5.6	0.3	76.9	3.4
女性全体 (540)	33.7	50.2	8.3	0.7	0.0	6.7	0.4	83.9	0.7
10歳代 (17)	23.5	41.2	29.4	0.0	0.0	5.9	0.0	64.7	0.0
20歳代 (39)	30.8	46.2	7.7	2.6	0.0	12.8	0.0	77.0	2.6
30歳代 (73)	32.9	45.2	12.3	0.0	0.0	9.6	0.0	78.1	0.0
40歳代 (114)	37.7	43.9	8.8	0.9	0.0	7.9	0.9	81.6	0.9
50歳代 (147)	36.7	53.7	1.4	0.7	0.0	6.8	0.7	90.4	0.7
60歳代 (148)	29.7	56.1	10.8	0.7	0.0	2.7	0.0	85.8	0.7
男性全体 (344)	22.4	53.5	15.1	4.4	0.3	4.4	0.0	75.9	4.7
10歳代 (8)	25.0	25.0	25.0	12.5	0.0	12.5	0.0	50.0	12.5
20歳代 (30)	20.0	46.7	20.0	3.3	0.0	10.0	0.0	66.7	3.3
30歳代 (43)	25.6	46.5	14.0	4.7	0.0	9.3	0.0	72.1	4.7
40歳代 (73)	20.5	52.1	15.1	8.2	0.0	4.1	0.0	72.6	8.2
50歳代 (76)	23.7	52.6	18.4	1.3	1.3	2.6	0.0	76.3	2.6
60歳代 (114)	21.9	61.4	11.4	3.5	0.0	1.8	0.0	83.3	3.5

女性全体で83.9%、男性全体で75.9%と、「男性優遇 (計)」の回答が多かった。
前回調査時と大きな変化はなく、依然として男性優遇の意識が強い項目といえる。

(ク) 人生を決める選択肢や自由さ

[%]

(n=884)	男性優遇 (計)		平等である	女性優遇 (計)		わからない	無回答	男性優遇 (計)	女性優遇 (計)
	男性の方が 非常に優遇されている	どちらかといえば 男性が優遇されている		女性が優遇されている	どちらかといえば 女性が優遇されている				
全体	17.0	45.4	27.9	3.1	0.6	5.5	0.6	62.4	3.7
女性全体 (540)	20.7	45.9	24.3	2.6	0.2	5.6	0.7	66.6	2.8
10歳代 (17)	11.8	47.1	29.4	0.0	0.0	5.9	5.9	58.9	0.0
20歳代 (39)	25.6	41.0	17.9	2.6	2.6	7.7	2.6	66.6	5.2
30歳代 (73)	26.0	43.8	16.4	2.7	0.0	11.0	0.0	69.8	2.7
40歳代 (114)	24.6	45.6	23.7	2.6	0.0	3.5	0.0	70.2	2.6
50歳代 (147)	24.5	44.2	23.1	2.0	0.0	5.4	0.7	68.7	2.0
60歳代 (148)	11.5	50.0	30.4	3.4	0.0	4.1	0.7	61.5	3.4
男性全体 (344)	11.3	44.2	33.7	4.1	0.9	5.8	0.0	55.5	5.0
10歳代 (8)	25.0	25.0	25.0	0.0	0.0	25.0	0.0	50.0	0.0
20歳代 (30)	16.7	36.7	33.3	0.0	0.0	13.3	0.0	53.4	0.0
30歳代 (43)	14.0	37.2	34.9	2.3	2.3	9.3	0.0	51.2	4.6
40歳代 (73)	6.8	47.9	34.2	4.1	0.0	6.8	0.0	54.7	4.1
50歳代 (76)	13.2	35.5	39.5	6.6	2.6	2.6	0.0	48.7	9.2
60歳代 (114)	9.6	53.5	29.8	4.4	0.0	2.6	0.0	63.1	4.4

この項目においては、「男性の方が非常に優遇されている」の回答が前回調査と比較して高く、女性で13.9%→20.7%、男性で7.7%→11.3%となった。

(ケ) 社会全体でみた場合

[%]

(n=884)	男性優遇 (計)		平等である	女性優遇 (計)		わからない	無回答	男性優遇 (計)	女性優遇 (計)
	男性の方が 非常に優遇されている	どちらかといえば 男性が優遇されている		女性の方が 非常に優遇されている	どちらかといえば 女性が優遇されている				
全体	14.3	59.6	14.7	2.6	0.6	7.6	0.6	73.9	3.2
女性全体 (540)	17.8	62.2	10.0	1.1	0.2	8.1	0.6	80.0	1.3
10歳代 (17)	5.9	64.7	17.6	0.0	0.0	11.8	0.0	70.6	0.0
20歳代 (39)	17.9	61.5	7.7	0.0	0.0	12.8	0.0	79.4	0.0
30歳代 (73)	16.4	49.3	12.3	5.5	1.4	15.1	0.0	65.7	6.9
40歳代 (114)	20.2	59.6	12.3	0.0	0.0	7.9	0.0	79.8	0.0
50歳代 (147)	23.8	59.9	6.8	0.7	0.0	7.5	1.4	83.7	0.7
60歳代 (148)	12.2	72.3	10.1	0.7	0.0	4.1	0.7	84.5	0.7
男性全体 (344)	9.0	55.8	21.8	5.2	0.6	7.3	0.3	64.8	5.8
10歳代 (8)	25.0	12.5	50.0	0.0	0.0	12.5	0.0	37.5	0.0
20歳代 (30)	6.7	56.7	10.0	10.0	0.0	16.7	0.0	63.4	10.0
30歳代 (43)	4.7	44.2	25.6	9.3	0.0	16.3	0.0	48.9	14.3
40歳代 (73)	9.6	54.8	19.2	6.8	0.0	9.6	0.0	64.4	6.8
50歳代 (76)	11.8	52.6	25.0	3.9	2.6	2.6	1.3	64.4	6.5
60歳代 (114)	7.9	65.8	21.1	2.6	0.0	2.6	0.0	73.7	2.6

女性 80.0%、男性 64.8%と「男性優遇 (計)」の回答が多かったが、男女差が 15.2 ポイント開いている。前回調査と変化はなく、社会全体でみても、「男性優遇」の意識が強いことがわかる。

2 家庭生活について

問3 あなたは現在、結婚されていますか。次の中からあてはまるものを選んでください。(〇は1つ)

[%]

	全体 (884)	女性 (540)	男性 (344)
結婚している (事実婚含む)	69.3	71.3	67.7
結婚していたが、離別・死別した	8.2	9.6	5.2
結婚していない	20.9	18.0	25.3
無回答	1.7	1.1	1.7

「結婚している」が 69.3%であり、「結婚していたが、離別・死別した」は 8.2%、「結婚していない」は 20.9%となっている。

前回調査と大きな変化はなかった。

(問3で結婚している (事実婚含む) を選んだ方のみ回答)

問3-1 ご自身及びパートナーの就労状況はどれですか。次の中からあてはまるものを選んでください。(〇は1つ)

[%]

	全体 (630)	女性 (391)	男性 (239)
共働きしている	56.1	58.8	52.3
自分だけ働いている	15.9	5.9	32.6
パートナーだけ働いている	15.6	23.8	2.5
どちらも働いていない	9.0	8.7	9.2

「共働きしている」が 56.1%と半数以上を占め、前回調査と比較すると、37.0%→56.1%となり、大きな増加傾向にある。

(問3で結婚している(事実婚含む)を選んだ方のみ回答)

問4 あなたの家庭(事実婚で同居している場合を含む)では、次の(ア)～(サ)の事柄を主に誰が担っていますか。それぞれの項目ごとに、あてはまるものを選んでください。

※「その他」には、ボランティア、ホームヘルパー、各種家事代行も含まれます。

※n=630(女性:391、男性:239)

(ア) 食事の支度

	全体	性別	
		女性	男性
夫	2.5	2.3	2.1
妻	83.5	83.4	81.2
夫婦同程度	11.4	11.0	11.3
その他家族	1.3	1.0	1.7
その他(※)	0.6	0.0	1.7
該当なし	2.7	2.3	2.1

(イ) 食事の後片付け・食器洗い

	全体	性別	
		女性	男性
夫	10.2	6.9	14.6
妻	64.3	70.8	51.9
夫婦同程度	23.2	18.4	29.3
その他家族	1.0	1.0	0.8
その他(※)	0.5	0.0	1.3
該当なし	3.0	2.8	2.1

(ウ) 日用品・食料品などの買い物

	全体	性別	
		女性	男性
夫	3.5	2.6	2.3
妻	61.0	64.7	65.0
夫婦同程度	33.0	28.6	24.7
その他家族	0.8	1.0	0.4
その他(※)	0.8	0.5	1.3
該当なし	3.0	2.6	2.5

(エ) 洗濯

	全体	性別	
		女性	男性
夫	6.0	3.8	9.2
妻	77.3	77.7	73.6
夫婦同程度	15.1	15.3	13.8
その他家族	0.6	0.8	0.4
その他(※)	0.3	0.0	0.8
該当なし	2.7	2.3	2.1

(オ) 掃除

	全体	性別	
		女性	男性
夫	5.6	2.8	9.2
妻	69.4	75.7	57.7
夫婦同程度	23.5	18.2	30.1
その他家族	0.8	1.3	0.0
その他(※)	0.3	0.0	0.8
該当なし	2.5	2.0	2.1

(カ) 資産・財産の管理(土地・家屋の購入など)

	全体	性別	
		女性	男性
夫	47.8	44.5	51.9
妻	21.9	22.8	18.8
夫婦同程度	28.7	29.4	26.4
その他家族	0.6	0.8	0.4
その他(※)	0.5	0.3	0.8
該当なし	2.5	2.3	1.7

(キ) 家計費管理

	全体	性別	
		女性	男性
夫	17.3	14.8	20.1
妻	62.7	63.7	59.4
夫婦同程度	18.6	18.2	18.0
その他家族	0.5	0.5	0.4
その他(※)	0.5	0.5	0.4
該当なし	2.5	2.3	1.7

(ク) 自治会・町内会の出席

	全体	性別	
		女性	男性
夫	30.8	25.8	37.7
妻	34.1	38.4	25.1
夫婦同程度	17.9	16.6	20.1
その他家族	0.8	1.0	0.0
その他(※)	0.8	0.5	0.8
該当なし	14.4	14.8	13.8

(ケ) 学校行事などへの参加

	全体	性別	
		女性	男性
夫	2.1	1.3	3.3
妻	50.2	55.5	38.9
夫婦同程度	17.8	13.3	24.7
その他家族	0.3	0.5	0.0
その他(※)	1.3	0.8	1.7
該当なし	27.1	25.8	28.9

(コ) 子育て

	全体	性別	
		女性	男性
夫	0.3	0.0	0.8
妻	45.1	46.5	40.2
夫婦同程度	28.3	26.1	31.4
その他家族	0.3	0.5	0.0
その他(※)	1.3	0.5	2.1
該当なし	23.8	23.8	23.45

(サ) 高齢者・病人などの介護

	全体	性別	
		女性	男性
夫	2.2	1.3	3.8
妻	23.7	28.9	13.8
夫婦同程度	16.5	13.6	20.9
その他家族	0.3	0.3	0.4
その他(※)	1.3	0.5	2.5
該当なし	54.9	52.7	56.5

家庭において、「夫」の役割分担が多いものとしては、「資産・財産の管理（土地・家屋等の購入など）」(47.8%)があげられる。一方、「妻」の場合は、「食事の支度」(83.5%)、「洗濯」(77.3%)があげられる。

前回調査と比較すると、共働き世帯数は大幅に増加したものの、家庭の役割分担の変化はほとんど見られない結果となった。

問5 男性が家事や育児、介護をすることについて、どのようなイメージをお持ちですか。(〇はいくつでも)

[%]

	全体	性別	
		女性	男性
男性も家事や育児などをするのは当然だ	72.1	74.8	68.9
男性自身も充実感が得られる	30.9	30.4	32.8
子どもにいい影響を与える	58.5	64.1	50.6
仕事と両立することは、現実として難しい	37.7	35.9	41.6
家事・育児・介護は女性の方が向いている	10.0	7.6	13.7
男性は、家事・育児・介護を行うべきでない	0.4	0.0	0.6
特にない	2.4	1.9	2.9
その他	3.4	3.9	2.9
無回答	0.0	0.0	0.0

「男性も家事や育児などをするのは当然だ」が72.1%であり、前回の64.6%から上昇となったが、問4をみると、現実には妻の家事負担量が多い結果となっている。

[性・年代別]

上段：女性 [%]

下段：男性 [%]

(女性:540、男性:344)	全体	10歳代	20歳代	30歳代	40歳代	50歳代	60歳代
男性も家事や育児などをするのは当然だ	74.8 68.9	76.5 62.5	79.5 80.0	82.2 65.1	69.3 75.3	74.8 61.8	73.6 68.4
男性自身も充実感が得られる	30.4 32.8	17.6 37.5	30.8 40.0	32.9 23.3	30.7 27.4	27.2 32.9	33.8 37.7
子どもにいい影響を与える	64.1 50.6	76.5 62.5	69.2 66.7	67.1 37.2	63.2 50.7	60.5 46.1	64.2 53.5
仕事と両立することは、現実として難しい	35.9 41.6	5.9 25.0	30.8 46.7	28.8 46.5	35.1 47.9	42.2 42.1	39.2 35.1
家事・育児・介護は女性の方が向いている	7.6 13.7	5.9 12.5	10.3 20.0	4.1 14.0	9.6 13.7	7.5 14.5	7.4 11.4
男性は、家事・育児・介護を行うべきでない	0.0 0.6	0.0 0.0	0.0 0.0	0.0 0.0	0.0 1.4	0.0 0.0	0.0 0.9
特にない	1.9 2.9	5.9 0.0	5.1 3.3	0.0 2.3	1.8 2.7	2.7 5.3	0.7 1.8
その他	3.9 0.6	0.0 12.5	2.6 0.0	1.4 2.3	4.4 5.5	4.1 3.9	5.4 0.9
無回答	0.0 0.0	0.0 0.0	0.0 0.0	0.0 0.0	0.0 0.0	0.0 0.0	0.0 0.0

「仕事と両立することは、現実として難しい」に注目すると、男性と女性（10～40歳代）の回答で12ポイント以上の差が生じている。家事や育児、介護参加の環境が、特に男性に整っていないことが読み取れる。

問6 家事や育児、介護などの家庭内の役割を男性も担うには、どうしたらよいと思いますか。(〇はいくつでも)

[%]

(n=884)	行政が、男性の家事・育児・介護への参加を促す啓発活動・学習活動を実施する	家庭で男性に家事・育児・介護への参加を強く要望する	男性も家事・育児・介護の仕方身につける	女性が経済的に自立する	男性の労働時間を短くする	働き方（就業の時間や場所）を個人の裁量で決められるようにする	わからない	その他	無回答
全体	33.4	21.0	59.4	28.8	39.2	52.6	3.4	9.1	0.0
女性全体 (540)	38.9	25.4	65.2	33.1	33.5	52.6	3.3	8.7	0.0
10歳代 (17)	52.9	23.5	58.8	23.5	41.2	47.1	5.9	5.9	0.0
20歳代 (39)	43.6	28.2	71.8	33.3	33.3	74.4	5.1	10.3	0.0
30歳代 (73)	39.7	34.2	63.0	39.7	43.8	60.3	1.4	9.6	0.0
40歳代 (114)	29.8	21.9	57.0	31.6	38.6	44.7	4.4	10.5	0.0
50歳代 (147)	33.3	25.2	62.6	35.4	29.9	57.8	4.1	8.8	0.0
60歳代 (148)	47.3	23.6	73.6	30.4	27.0	44.6	2.0	6.8	0.0
男性全体 (344)	23.8	14.5	51.7	21.5	49.7	53.2	3.2	9.0	0.0
10歳代 (8)	12.5	12.5	75.0	37.5	62.5	25.0	12.5	0.0	0.0
20歳代 (30)	23.3	16.7	76.7	16.7	66.7	63.3	0.0	3.3	0.0
30歳代 (43)	23.3	11.6	34.9	23.3	65.1	72.1	2.3	4.7	0.0
40歳代 (73)	9.6	13.7	43.8	17.8	47.9	49.3	1.4	17.8	0.0
50歳代 (76)	21.1	11.8	42.1	17.1	46.1	51.3	6.6	11.8	0.0
60歳代 (114)	36.0	17.5	61.4	26.3	42.1	49.1	2.6	5.3	0.0

男性の場合、20～30歳代で、「働き方（就業の時間や場所）を個人の裁量で決められるようにする」、「男性の労働時間を短くする」が60%以上となっている。仕事を始める世代、子育てを始める世代の男性にとって、働き方の柔軟性が特に求められていることがうかがえる。

前回調査と比較して、大きな数値変化はなかった。

3 子育て・教育について

問7 子どもを育てる場合、どのようにしたいと思いますか。(〇は1つ)

[%]

	全体	女性	男性
性別によって 育て方を変えた方がよい	12.8	6.6	21.5
性別にかかわらず、同じように 区別しないで育てた方がよい	66.3	72.6	54.9
どちらとも言えない (わからない)	22.3	72.6	54.9

「性別にかかわらず、同じように区別しないで育てた方がよい」が 66.3%を占めており、前回調査と比較すると、男女共に上昇傾向にあるが、特に女性の伸びが顕著であった。(全体 54.7%→66.3%、女性 58.1%→72.6%、男性 50.0%→54.9%)

[性・年代別]

上段：女性 [%]
下段：男性 [%]

	全体	10歳代	20歳代	30歳代	40歳代	50歳代	60歳代
性別によって、 育て方を変えた方がよい	6.6	0.0	17.9	4.1	12.3	3.4	4.1
	21.5	25.0	26.7	25.6	28.8	13.2	17.5
性別にかかわらず、同じように 区別しないで育てた方がよい	72.6	58.8	56.4	79.5	65.8	74.1	75.0
	54.9	62.5	43.3	55.8	41.1	63.2	56.1
どちらとも言えない (わからない)	20.8	41.2	25.6	16.4	21.9	19.7	18.9
	23.6	12.5	26.7	16.3	27.4	21.1	23.7

性別で見ると、「性別にかかわらず、同じように区別しないで育てた方がよい」と回答した人は、10歳代以外、男性よりも女性が多くなっている。

問 8 家庭・学校や地域社会において、これからどんな教育や習慣の見直しが重要であると思いますか。次の（ア）～（ク）の項目ごとに1～4の中からあてはまるものを選んでください。（〇は項目ごとに1つずつ）

[%]

	重要である (計)		重要でない (計)		無回答	重要である (計)	重要でない (計)
	非常に重要であると思う	重要であると思う	あまり重要であるとは思わない	重要ではないと思う			
女らしい、あるいは男らしい遊びや習慣を押し付けないようにする	28.0	43.7	20.4	6.3	1.5	71.7	26.7
男女の区別なく、同じように家事の分担をさせる	41.9	47.1	7.4	2.3	1.2	89.0	9.7
出席簿や座席など、男女で分ける習慣をなくす	18.2	30.1	38.4	12.0	1.2	48.3	50.4
男女の区別なく、能力や個性を生かせるように指導する	58.5	35.8	3.1	1.3	1.3	94.3	4.4
男女の差別的な社会の仕組みや歴史について、認識を深める	32.3	43.6	17.5	4.5	2.0	75.9	22.0
校長・教頭などに女性を積極的に登用する	22.6	39.4	29.7	7.2	1.1	62.0	36.9
性についての正しい十分な教育を行う	46.1	44.4	7.5	0.7	1.3	90.5	8.2
多様な結婚観・家庭観があることを教える	39.2	45.4	11.8	2.4	1.2	84.6	14.2

「重要である（計）」において、「男女の区別なく、能力や個性を生かせるように指導する」が94.3%で最も高く、以下、「性についての正しい十分な教育を行う」（90.5%）、「男女の区別なく、同じように家事の分担をさせる」（89.0%）と続いており、前回調査同様の順となっている。

[性・年代別]

上段：女性 [%]

下段：男性 [%]

	重要である (計)		重要でない (計)		無回答	重要で ある (計)	重要で ない (計)
	非常に 重要で あると 思う	重要で あると 思う	あまり 重要で あると は思わ ない	重要で はない と思う			
女らしい、あるいは男らしい遊びや習慣を押し付けないようにする	31.5 22.7	45.4 42.4	17.4 25.3	4.3 8.4	1.5 1.2	76.9 65.1	21.7 33.7
男女の区別なく、同じように家事の分担をさせる	48.1 32.6	44.4 52.0	5.0 11.6	0.9 3.5	1.5 0.3	92.5 84.6	5.9 15.1
出席簿や座席など、男女で分ける習慣をなくす	18.9 17.7	30.9 29.1	40.4 35.8	8.3 17.2	1.5 0.3	49.8 46.8	48.7 53.0
男女の区別なく、能力や個性を生かせるように指導する	59.6 57.6	35.9 36.0	2.2 4.4	0.9 1.2	1.3 0.9	95.5 93.6	3.1 5.6
男女の差別的な社会の仕組みや歴史について、認識を深める	31.1 34.3	44.4 43.0	18.7 16.6	3.1 5.5	2.6 0.6	75.5 77.3	21.8 22.1
校長・教頭などに女性を積極的に登用する	21.9 24.7	43.7 33.4	29.8 28.8	3.5 12.5	1.1 0.6	65.6 58.1	33.3 41.3
性についての正しい十分な教育を行う	49.1 41.9	43.0 46.8	6.3 9.9	0.4 0.6	1.3 0.9	92.1 88.7	1.7 10.5
多様な結婚観・家庭観があることを教える	40.7 36.3	45.6 46.8	10.6 13.7	1.7 2.9	1.5 0.3	86.3 83.1	12.3 16.6

「男女の区別なく、能力や個性を生かせるように指導する」を「重要である (計)」という人は、男女共に90%を上回っている。また、「性についての正しい十分な教育を行う」、「多様な結婚観・家庭観があることを教える」、「男女の区別なく、同じように家事の分担をさせる」についても、性別問わず「重要である (計)」が80%以上となっている。

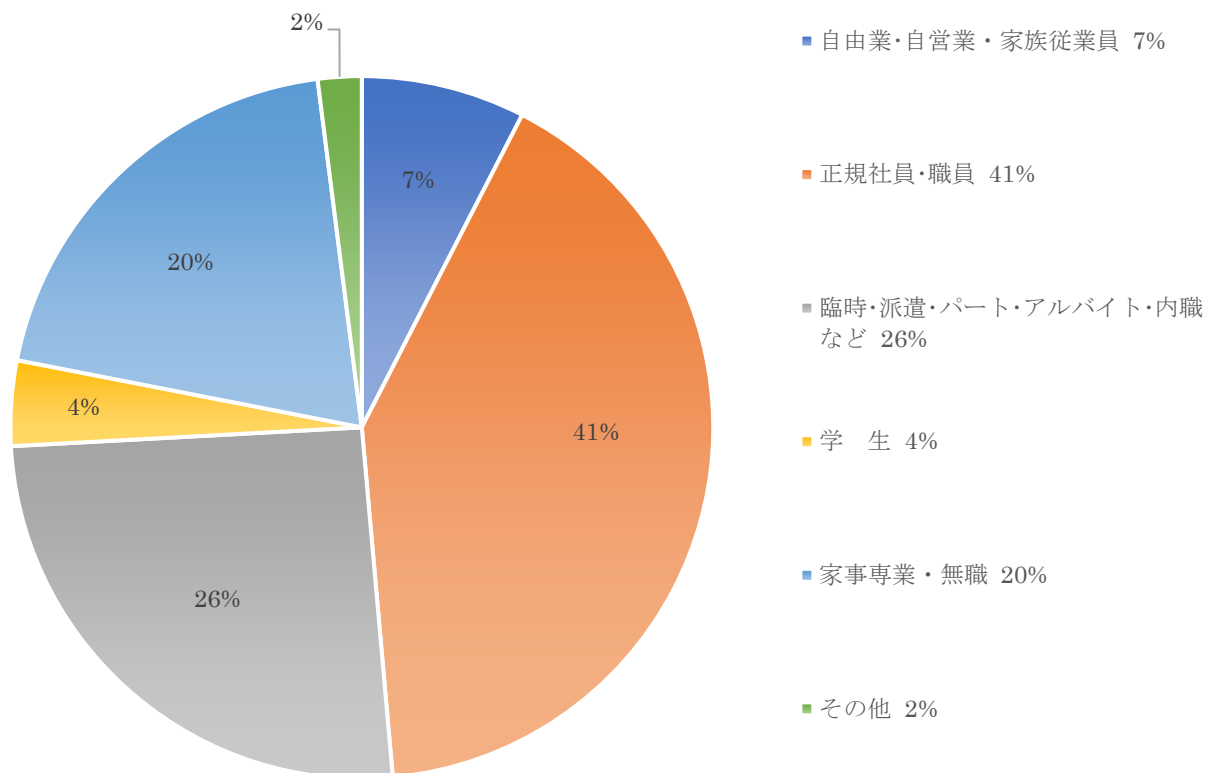
前回調査と比べると、どの項目も数値が伸びており、この分野に対する意識が強くなっていることがうかがえる。

4 職業（就業）について

問9 あなたのご職業は何ですか。次の中からあてはまるものを選んでください。
(〇は1つ)

- | | |
|-------------------------|------------|
| 1. 自由業・自営業・家族従業員 | 4. 学 生 |
| 2. 正規社員・職員 | 5. その他 () |
| 3. 臨時・派遣・パート・アルバイト・内職など | 6. 無 職 |

職業（就業）



(問10~13については、問9で1, 2, 3を選んだ方のみ回答)

問10 あなたの職場では、性別により仕事の内容や待遇面で差別がありますか。(〇は1つ)

[%]

	全体 (657)	女性 (366)	男性 (271)
差別がある	27.0	23.2	31.0
差別はない	73.0	76.8	69.0
無回答	0.0	0.0	0.0

職場での差別の有無は、「差別がある」が27.0%、「差別はない」が73.0%となっている。
「差別がある」と感じている割合は、女性よりも男性が多い結果となった。

(問 10で「差別がある」とお答えの方に)

問 10-1 具体的にどのようなことがありますか。(〇はいくつでも)

[%]

	全体 (176)	女性 (85)	男性 (84)
賃金に男女差がある	31.3	38.8	25.0
昇給、昇格に男女差がある	42.6	47.1	36.9
性別によって能力を適正に評価しない	22.7	29.4	16.7
性別によって配置場所が限られている	47.2	44.7	50.0
性別によって仕事内容が決められてしまう	45.5	32.9	56.0
女性を幹部に登用しない	26.1	22.4	28.6
結婚や出産で 退職しなければならない雰囲気がある	9.7	10.6	8.3
育児・介護休業(休暇)の制度を 利用しにくい雰囲気がある	25.0	25.9	25.0
中高年以上の女性に 退職を勧める雰囲気がある	8.5	12.9	1.2
女性が教育や研修等を受ける機会がない	10.8	16.5	4.8
その他	12.5	12.9	11.9
無回答	0.6	0.0	0.0

女性では「昇給、昇格に男女差がある」が47.1%となっているほか、「性別によって能力を適正に評価しない」が29.4%となっている。一方、男性では「性別によって仕事内容が決められてしまう」が56.0%、「性別によって配置場所が限られている」50.0%となっており、性別によって具体的な内容に違いがあることがわかる。

問 11 あなたが、「仕事」「家庭生活」「地域・個人の生活」のうち優先したいものはどれですか。
次の1～8の中から、あなたの理想と現状を1つずつ選んでください。

上段：(1)理想 [%]

下段：(2)現実 [%]

		全体 (655)	女性 (373)	男性 (282)
「仕事」を優先	したい	2.3	0.5	4.6
	している	35.9	28.4	45.4
「家庭生活」を優先	したい	19.3	20.4	18.1
	している	16.9	24.9	6.7
「地域・個人の生活」を優先	したい	4.7	4.6	5.0
	している	1.4	1.3	1.4
「仕事」と「家庭生活」をともに優先	したい	29.0	29.2	27.7
	している	28.1	28.2	26.2
「仕事」と「地域・個人の生活」をともに優先	したい	3.3	1.9	4.6
	している	3.9	2.4	5.7
「家庭生活」を「地域・個人の生活」とともに優先	したい	11.2	11.0	11.3
	している	2.0	2.4	1.1
「仕事」と「家庭生活」と「地域・個人の生活」を ともに優先	したい	28.2	30.0	24.8
	している	9.2	8.6	9.6
わからない	したい	2.0	1.3	2.8
	している	2.7	2.7	2.8

性別問わず、最も理想と現実で差があったのが「仕事」の項目であり、優先したいは2.3%だが、現実には35.9%の人が優先していると回答した。前回調査と同様の結果となった。

※家庭生活

家族とともに過ごすこと。家事（食事の支度・片付け、掃除、洗濯など）、育児、余暇、介護、看護など。

※地域・個人の生活

学習・研究、趣味、娯楽、スポーツ、ボランティア活動、社会活動、交際・つきあいなど。

問 12 育児休業や介護休業を取得したことがありますか。(〇は項目ごとに1つずつ)

[%]

		(最長取得期間 1年以上) 利用したことがある	(最長取得期間 1年未満) 利用したことがある	利用したことがない
育児休業	全体	6.3	7.8	87.1
	女性	10.4	9.9	79.7
	男性	0.7	5.4	93.9
介護休業	全体	0.2	1.9	98.0
	女性	0.0	2.5	97.5
	男性	0.0	1.1	98.9

男女共に、高い割合で育児休業も介護休業も「利用したことがない」と回答している。育児休業においては、特に男性の取得率が低い。

※最長取得期間

育児休業・介護休業を複数回取得した場合に、一番長い取得期間のこと。

(問 12 で「利用したことがない」とお答えの方)

問 12-1 育児休業、介護休業を取得しなかった理由は何ですか。(〇は項目ごとに1つずつ)

[%]

		取得したことがない			
		職場に制度がなかった	在職中に育児・介護をしたことがない	取得しなくても育児・介護に対応できた	取得したかったが、事情により取得できなかった
n=549 (女性：280 男性 258 無回答：11)					
育児休業	全体	23.1	50.8	18.8	7.3
	女性	16.4	66.1	12.1	5.4
	男性	30.6	33.7	26.0	9.7
介護休業	全体	14.9	71.9	16.4	4.6
	女性	10.4	70.0	15.1	4.4
	男性	17.4	62.9	15.5	4.2

男女共に、「在職中に育児・介護をしたことがない」が一番高い。一方、「職場に制度がなかった」と回答した男性も多い結果となった。

[性・年代別]

上段：女性 [%]

下段：男性 [%]

「育児休業」

	全体	10 歳代	20 歳代	30 歳代	40 歳代	50 歳代	60 歳代
職場に制度がなかった	16.4	0.0	0.0	9.3	18.8	20.9	18.0
	30.6	0.0	0.0	8.8	21.3	36.4	51.3
在職中に育児をしたことがない	66.1	100	100	67.4	60.9	62.6	62.0
	33.7	100	100	14.7	34.4	27.3	15.8
取得しなくても育児に対応できた	12.1	0.0	0.0	9.3	13.0	13.2	18.0
	26.0	0.0	0.0	32.4	29.5	24.2	28.9
取得したかったが、事情により取得できなかった	5.4	0.0	0.0	14.0	7.2	3.3	2.0
	9.7	0.0	0.0	14.7	14.8	12.1	3.9

若い世代ほど「職場に制度がなかった」という回答は少なくなっている。

「取得しなくても育児に対応できた」を選択した比率に男女差がある状況は、男女で育児分担量に差があるためとも読み取れる。

「介護休業」

上段：女性 [%]

下段：男性 [%]

	全体	10 歳代	20 歳代	30 歳代	40 歳代	50 歳代	60 歳代
職場に制度がなかった	10.4	0.0	0.0	4.5	8.2	11.5	20.0
	17.4	0.0	0.0	8.3	9.2	18.2	32.9
在職中に介護をしたことがない	70.0	100	91.7	88.6	82.4	63.5	40.0
	62.9	100	95.5	72.2	73.8	63.6	39.5
取得しなくても介護に対応できた	15.1	0.0	8.3	2.3	7.1	19.2	32.7
	15.5	0.0	5.0	16.7	12.3	12.1	23.7
取得したかったが、事情により取得できなかった	4.4	0.0	0.0	4.5	2.4	5.8	7.3
	4.2	0.0	0.0	2.8	4.6	6.1	3.9

問 13 育児休業、介護休業の今後の利用について、あなたはどうお考えですか。(〇は項目ごとに1つずつ)

[%]

		利用したいと思う	利用したいと思うが不安がある	利用したいと思わない	育児・介護休業を利用する予定がない	職場に制度がない	わからない
n=654 (女性：363 男性：278 無回答：13)							
育児休業	全体	28.0	11.2	2.6	47.8	3.7	6.7
	女性	30.6	5.8	1.1	53.6	3.3	5.6
	男性	24.6	18.6	4.3	41.1	3.6	7.9
介護休業	全体	40.5	18.8	2.6	20.5	8.6	9.0
	女性	46.0	14.3	1.1	20.1	10.5	8.0
	男性	33.8	24.8	4.3	21.2	5.8	10.1

利用する状況になった場合、「利用したいと思う」の回答が多い。一方、「利用したいと思うが不安がある」と回答した人も多いため、安心して取得できる環境整備が必要である。

問 14 女性の仕事と、結婚・出産等の関係について、あなたはどのようにお考えですか。(〇は1つ)

[%]

	全体	女性	男性
結婚や出産にかかわらず、 仕事をもち続けた方がよい	38.2	37.1	39.9
結婚や出産などで一時退職し、子どもが 大きくなったら再び仕事をもつ方がよい	13.8	11.9	17.2
子どもができるまで働く方がよい	1.0	0.8	1.5
結婚するまで働く方がよい	0.5	0.4	0.6
結婚や出産をしても仕事を続けた方が よいと思うが、現実的には難しい	22.9	27.8	15.1
生涯仕事をもたない方がよい	0.1	0.0	0.0
結婚や出産後は、パートタイム（短時間労働） に切り替えるなど負担を軽くする方がよい	12.2	12.3	12.4
その他	8.5	7.2	10.4
わからない	2.8	2.6	3.0

女性のライフコースとして、「結婚や出産にかかわらず、仕事をもち続けた方がよい」という「就労継続型」が38.2%と最も高い結果となった。次いで、「結婚や出産をしても仕事を続けた方がよいと思うが、現実的には難しい」が、22.9%となっている。

前回調査と比較すると、「結婚や出産にかかわらず、仕事を持ち続けた方がよい」の割合が高くなった。
(前回調査は、全体：30.0%→38.2%、女性：28.5%→37.1%、男性：31.9%→39.9%)

[性・年代別]

上段：女性 [%]

下段：男性 [%]

	全体	10 歳代	20 歳代	30 歳代	40 歳代	50 歳代	60 歳代
結婚や出産にかかわらず、 仕事をもち続けた方がよい	37.1 39.9	29.4 37.5	17.9 23.3	43.8 23.3	37.7 44.4	34.0 36.8	42.1 48.2
結婚や出産などで一時退職し、 子どもが大きくなったら 再び仕事をもつ方がよい	11.9 17.2	17.6 37.5	17.9 16.7	9.6 14.0	7.0 20.8	11.6 15.8	15.0 14.9
子どもができるまで働く方がよい	0.8 1.5	0.0 0.0	0.0 0.0	1.4 0.0	0.9 1.4	1.4 2.6	0.0 1.8
結婚するまで働く方がよい	0.4 0.6	0.0 0.0	0.0 0.0	0.0 0.0	0.0 0.0	1.4 1.3	0.0 0.9
結婚や出産をしても 仕事を続けた方がよいと思うが、 現実的には難しい	27.8 15.1	47.1 0.0	41.0 30.0	16.4 18.6	24.6 8.3	27.2 10.5	29.3 17.5
生涯仕事をもたない方がよい	0.0 0.0	0.0 0.0	0.0 0.0	0.0 0.0	0.0 0.0	0.0 0.0	0.0 0.0
結婚や出産後は、パートタイム (短時間労働)に切り替えるなど 負担を軽くする方がよい	12.3 12.4	0.0 12.5	12.8 20.0	17.8 16.3	15.8 12.5	10.9 13.2	9.3 7.9
その他	7.2 10.4	0.0 12.5	10.3 3.3	8.2 23.3	11.4 9.7	8.2 13.2	2.1 5.3
わからない	2.6 3.0	0.0 0.0	0.0 6.7	2.7 4.7	2.6 2.8	4.1 2.6	2.1 1.8

女性の場合、20歳代以外では、「結婚や出産にかかわらず、仕事をもち続けた方がよい」という「就労継続型」が3～4割前後となっている。次いで、「結婚や出産をしても仕事を続けた方がよいと思うが、現実的には難しい」が、女性全体で27.8%であり、20歳代の女性は、この項目が最も高い数値になっている。

男性の場合も、「結婚や出産にかかわらず、仕事をもち続けた方がよい」が最も多く、10歳代、40歳代、50歳代、60歳代では4～5割前後を占めている。仕事し始めの20歳代男女共に、女性が仕事をもち続けることに困難さを抱いていることが読み取れる。

問 15 男女が共に仕事や家庭、地域活動、趣味・娯楽などを両立していくためには、どのような取り組みが重要だと思いますか。(〇はいくつでも)

[%]

	全体	女性	男性
育児・介護休業や休暇の取得や、 職場復帰がしやすい職場環境を整備する	76.8	80.0	74.4
育児・介護休業中の賃金や手当などの 経済的支援を充実する	63.0	64.6	63.4
地域や職場内の保育園や学童保育の整備、 保育時間の延長など保育内容を充実する	56.6	60.6	52.6
在宅勤務、フレックスタイム制度など、 柔軟な勤務制度を導入する	61.8	64.3	58.7
残業を減らすなど、年間労働時間を短縮する	43.5	43.3	45.3
管理職の意識や男性中心の職場運営を見直す	38.6	41.9	33.7
仕事と家庭を両立させていく事に対し、 周囲の理解や協力がある	58.1	64.1	51.2
再就職に関する相談や支援体制を充実させる	31.7	35.2	27.3
パートタイマーなど 非正規社員・職員の労働条件を改善する	43.7	50.4	34.6
その他	4.1	3.7	4.7
わからない	2.5	1.5	3.8
無回答	0.0	0.0	0.0

「育児・介護休業や休暇の取得や、職場復帰がしやすい職場環境を整備する」が76.8%で最も多く、大半の項目で男性より女性の数値が高くなっている。

前回調査と比較すると、「在宅勤務、フレックスタイム制度など、柔軟な勤務制度を導入する」の項目が上昇している(54.0%→61.8%)。

[性・年代別]

上段：女性 [%]
下段：男性 [%]

	全体	10歳代	20歳代	30歳代	40歳代	50歳代	60歳代
育児・介護休業や休暇の取得や、 職場復帰がしやすい職場環境を整備する	80.0 74.4	82.4 62.5	84.6 86.7	83.6 72.1	71.9 61.6	78.9 67.1	83.8 86.0
育児・介護休業中の賃金や手当などの 経済的支援を充実する	64.6 63.4	76.5 50.0	87.2 80.0	75.3 65.1	55.3 61.6	63.9 57.9	60.8 64.0
地域や職場内の保育園や学童保育の整備、 保育時間の延長など保育内容を充実する	60.6 52.6	70.6 62.5	56.4 63.3	58.9 51.2	50.0 47.9	62.6 43.4	68.2 58.8
在宅勤務、フレックスタイム制度など、 柔軟な勤務制度を導入する	64.3 58.7	52.9 62.5	71.8 73.3	72.6 58.1	67.5 61.6	60.5 50.0	60.8 58.8
残業を減らすなど、年間労働時間を短縮する	43.3 45.3	41.2 50.0	51.3 70.0	60.3 46.5	40.4 41.1	38.1 47.4	40.5 39.5
管理職の意識や男性中心の職場運営を見直す	41.9 33.7	41.2 25.0	46.2 40.0	42.5 37.2	37.7 26.0	42.9 31.6	42.6 37.7
仕事と家庭を両立させていく事に対し、 周囲の理解や協力がある	64.1 51.2	76.5 75.0	71.8 83.3	64.4 48.8	68.4 53.4	61.2 51.3	60.1 40.4
再就職に関する相談や支援体制を充実させる	35.2 27.3	41.2 25.0	46.2 40.0	35.6 18.6	31.6 21.9	31.3 30.3	38.5 28.9
パートタイマーなど 非正規社員・職員の労働条件を改善する	50.4 34.6	29.4 25.0	59.0 36.7	52.1 39.5	45.6 38.4	52.4 31.6	51.4 32.5
その他	3.7 4.7	0.0 0.0	10.3 0.0	5.5 14.0	7.0 4.1	2.0 5.3	0.7 2.6
わからない	1.5 3.8	0.0 12.5	5.1 3.3	1.4 0.0	2.6 4.1	1.4 10.5	0.0 0.0
無回答	0.0 0.0	0.0 0.0	0.0 0.0	0.0 0.0	0.0 0.0	0.0 0.0	0.0 0.0

5 地域活動について

問 16 あなたは、この1年間、どのような地域活動に参加していましたか。(〇はいくつでも)

[%]

	全体	女性	男性
スポーツなど健康増進のための活動	12.3	12.4	12.2
趣味や文化・教養を高めるための活動	12.4	14.1	9.3
町内会や自治会の活動	22.7	21.1	25.9
P T Aや子ども会の活動	9.8	12.0	6.7
高齢者クラブの活動	1.8	1.7	1.7
国際交流関係の活動	1.1	0.7	1.2
自然保護関係の活動	1.5	1.5	1.5
防犯・防災関係の活動	4.5	2.2	8.1
その他	1.2	0.7	2.0
特になし	53.8	53.0	55.5
無回答	0.0	0.0	0.0

「特になし」が過半数を占め、前回調査と比較しても数値が上がっている(47.7%→53.8%)。新型コロナウイルス感染症の影響もあり、地域活動離れが進んでいることがうかがえる。

(問 16 で「特になし」とお答えの方に)

問16-1 こうした活動に参加しない理由は何ですか。(〇はいくつでも)

[%]

	全体 (487)	女性 (286)	男性 (191)
仕事が忙しいから	36.6	34.3	39.8
家事や育児・介護が忙しいから	13.6	16.1	9.9
家族の協力や理解が得られないから	1.8	2.1	1.6
ひとりでは参加しにくいから	18.3	18.2	17.3
活動や交流の場所がないから	12.9	14.3	11.0
人間関係がわずらわしいから	20.5	15.7	26.7
参加したい活動がないから	22.2	22.7	22.0
こうした活動には興味がないから	18.5	16.1	22.5
こうした活動に関する情報がないから	23.8	22.7	24.6
その他	10.5	12.2	7.9
無回答	0.0	0.0	0.0

「仕事が忙しいから」が 36.6%で最も高く、以下、「こうした活動に関する情報がないから」(23.8%)「参加したい活動がないから」(22.2%)「人間関係がわずらわしいから」(20.5%)の順で続いている。性別で見ると、女性では「家事や育児・介護が忙しいから」が 16.1%と、男性 9.9%を上回っている。

前回調査と大きな数値変化は見られなかった。

6 人権について

問17 あなたは、「人権が尊重されていない」と感じるのは、どのようなことについてでしょうか。(〇はいくつでも)

[%]

	全体	女性	男性
職場におけるセクシャル・ハラスメント (性的嫌がらせ)	56.6	58.0	54.9
パートナーや交際相手からの暴力	47.4	49.1	45.1
パートナーや交際相手からの 一方的なセックスの強要	41.4	44.8	36.3
つきまとい (ストーカー) 行為等	42.2	42.0	42.7
レイプ (強姦) などの 性暴力や痴漢などのわいせつ行為	56.2	55.9	57.0
売春・買春・援助交際・JKビジネス	35.9	37.6	33.1
女性の体の一部などを 内容と無関係に使用した広告	31.6	36.5	23.8
アダルトビデオ・インターネット等 メディアにおけるわいせつ情報や性の商品化	28.6	33.7	20.3
その他	5.8	5.6	5.8
特に感じない	13.5	11.3	16.9
わからない	10.7	10.7	10.8
無回答	0.0	0.0	0.0

「セクシャル・ハラスメント (性的いやがらせ)」が 56.6%で最も高く、「レイプ (強姦) などの性暴力や痴漢などのわいせつ行為」(56.2%)「パートナーや交際相手からの暴力」(47.4%)の順で続いている。前回調査と比較すると、全ての項目で6~20ポイント数値が上昇する結果となった。

[性・年代別]

上段：女性 [%]
下段：男性 [%]

	全体	10 歳代	20 歳代	30 歳代	40 歳代	50 歳代	60 歳代
職場におけるセクシャル・ハラスメント (性的嫌がらせ)	58.0	52.9	46.2	64.4	47.4	61.2	63.5
	54.9	25.0	60.0	58.1	53.4	52.6	57.0
パートナーや交際相手からの暴力	49.1	29.4	41.0	52.1	50.0	54.4	46.6
	45.1	12.5	56.7	62.8	43.8	39.5	42.1
パートナーや交際相手からの 一方的なセックスの強要	44.8	29.4	41.0	52.1	43.9	50.3	39.9
	36.3	12.5	56.7	51.2	35.6	27.6	33.3
つきまとい (ストーカー) 行為等	42.0	52.9	43.6	46.6	35.1	51.0	37.2
	42.7	25.0	50.0	58.1	41.1	36.8	41.2
レイプ (強姦) などの 性暴力や痴漢などのわいせつ行為	55.9	47.1	51.3	60.3	52.6	57.8	56.1
	57.0	37.5	70.0	72.1	53.4	50.0	56.1
売春・買春・援助交際・JKビジネス	37.6	35.3	33.3	39.7	30.7	40.8	38.5
	33.1	37.5	36.7	39.5	24.7	28.9	37.7
女性の体の一部などを 内容と無関係に使用した広告	36.5	29.4	33.3	35.6	32.5	36.7	41.2
	23.8	12.5	30.0	37.2	16.4	19.7	25.4
アダルトビデオ・インターネット等 メディアにおけるわいせつ情報や 性の商品化	33.7	0.0	17.9	27.4	27.2	36.7	43.9
	20.3	12.5	3.3	20.9	11.0	22.4	29.8
その他	5.6	11.8	7.7	0.0	11.4	6.8	2.7
	5.8	12.5	6.7	7.0	5.5	6.6	4.4
特に感じない	11.3	23.5	25.6	13.7	15.8	7.5	6.1
	16.9	12.5	20.0	11.6	19.2	22.4	13.2
わからない	10.7	0.0	15.4	6.8	9.6	12.9	8.8
	10.8	25.0	6.7	4.7	15.1	10.5	10.5

女性の場合、30歳代では「レイプ (強姦) などの性暴力や痴漢などのわいせつ行為」が 60.3%と、全年代中最も高く、「セクシャル・ハラスメント (性的いやがらせ)」も 64.4%と最も高くなっている。

男性の場合も、20, 30歳代では「レイプ (強姦) などの性暴力や痴漢などのわいせつ行為」が 7割以上と高くなっており、50歳代、60歳代では「アダルトビデオ・インターネット等メディアにおけるわいせつ情報や性の商品化」がそれぞれ 22.4%、29.8%と他の年代よりも高くなっている。

問 18 あなたは、「性的少数者（性的マイノリティ）」や「LGBT」という言葉について聞いたことがありますか。また、意味を知っていますか。（〇は1つ）

[%]

	全体	女性	男性
言葉も意味も知っている	80.0	79.5	80.5
言葉は聞いたことがあるが、 意味は知らない	14.7	16.1	13.1
言葉も意味も知らない	5.4	4.3	6.4

「言葉も意味も知っている」が8割と高い数値となっている。

[性・年代別]

上段：女性 [%]

下段：男性 [%]

	全体	10歳代	20歳代	30歳代	40歳代	50歳代	60歳代
言葉も意味も知っている	79.5	82.4	76.9	79.5	78.9	82.3	73.6
	80.5	75.0	90.0	86.0	76.7	77.6	80.7
言葉は聞いたことがあるが、 意味は知らない	16.1	11.8	17.9	13.7	17.5	13.6	18.2
	13.1	12.5	10.0	11.6	13.7	13.2	14.0
言葉も意味も知らない	4.3	5.9	5.1	4.1	3.5	4.1	4.7
	6.4	12.5	0.0	2.3	9.6	9.2	5.3

問 19 あなたは、性的少数者（性的マイノリティ）の方が、偏見や差別により、生活しづらい社会だと思いますか。（〇は1つ）

[%]

	全体	女性	男性
思う	37.2	37.5	37.5
どちらかと言えば思う	42.9	46.0	40.7
どちらかと言えば思わない	5.3	4.1	7.3
思わない	2.5	1.1	4.4
わからない	10.8	11.4	10.2

「思う（計）」という人は、男女共に 80.1%と高くなっている。

※性的少数者（性的マイノリティ）、LGBT：性的少数者（性的マイノリティ）とは、性別違和（「体の性」と「こころの性」が一致しない状態）や性的指向（恋愛対象の性別）が異性とは限らない人などのことを言います。LGBTは、性的少数者を表す言葉の1つで、Lesbian（レズビアン、女性同性愛者）、Gay（ゲイ、男性同性愛者）、Bisexual（バイセクシュアル、両性愛者）、Transgender（トランスジェンダー、身体の性と心の性が一致しない者）の頭文字をとった言葉です。また、最近では、Questioning（クエスチョニング、自身の性自認や性的指向が定まっていない又は決めない者、分からない者）の頭文字のQや、定義しきれない多様な性を表現する+（プラス）記号を加えて、LGBTQ+と表記されることもあります。

(問 19 で「思う」、「どちらかと言えば思う」とお答えの方にお伺いします。)

問 19-1 あなたは、性的少数者（性的マイノリティ）の方に対する偏見や差別をなくし、性的少数者（性的マイノリティ）の方が生活しやすくなるためにはどのような対策が必要だと思いますか。（〇はいくつでも）

[%]

	全体	女性	男性
行政が市民等への周知啓発を行う	25.1	26.9	22.4
相談窓口等を充実させ、その存在を周知する	28.0	29.6	26.7
生徒や市民への対応を想定し、小中高の学校教員や行政職員への研修等を行う	42.1	45.0	38.4
法律等に、性的少数者（性的マイノリティ）の方への偏見や差別解消への取り組みを明記する	36.9	37.2	37.5
当事者や支援団体、行政等を交えた連絡、意見交換を行う	22.3	23.1	21.5
働きやすい職場環境づくりの取り組みをする	46.6	50.9	40.4
その他	7.0	6.7	7.3
わからない	6.6	6.1	7.3

「働きやすい職場環境づくりの取り組みをする」が 46.6%で最も高く、「生徒や市民への対応を想定し、小中高の学校教員や行政職員への研修等を行う」（42.1%）が続いている。

問 20 あなたは、これまでに、あなたのパートナー（事実婚や別居中、離別・死別を含む）または恋人などから、次のようなことをされたことがありますか。それぞれの項目ごとに1～3の中からあてはまるものを選んでください。

[%]

	経験がある（計）		まったく ない	無回答	経験が ある （計）
	何度も あった	1,2度 あった			
大声でどなられる	13.8	20.6	61.9	3.6	34.4
「だれのおかげで生活できるんだ」 とか「かいしょうなし」などと言われる	5.5	10.2	81.5	2.9	15.7
交友関係や行き先、電話やメールなどを 必要以上に、細かく監視されたり、 連絡を制限される	5.3	7.6	83.9	3.2	12.9
家計に必要な生活費を渡してくれない	5.0	4.0	87.7	3.3	9.0
何を言っても長時間、無視され続ける	5.1	10.3	81.2	3.4	15.4
あなたは見たくないのに、ポルノビデオ やポルノ雑誌を見せられる	0.6	1.9	94.4	3.2	2.5
あなたがいやがっているのに、 性的な行為を強要される	4.1	6.1	86.4	3.4	10.2
なぐるふりや、 刃物でおどされる	2.0	3.4	91.4	3.2	5.4
平手でうつ、なぐる、足でけるなどの 暴行を受ける	2.4	6.6	87.7	3.2	9.0
子どもの前で 暴力をふるわれる	1.4	2.8	91.7	4.1	4.2
その他	1.8	0.2	0.0	98.0	2.0

上記内容の経験の有無について、「経験がある（計）」の多い順にみると、「大声でどなられる」が34.4%で最も多く、以下、「『だれのおかげで生活できるんだ』とか『かいしょうなし』などと言われる」（15.7%）、「何を言っても長時間、無視され続ける」（15.4%）の順で続いている。前回調査と比較しても数値は変わらず、ほぼ横ばいとなっている。

【性別】

上段：女性 [%]
下段：男性 [%]

	経験がある（計）		まったく ない	無回答	経験が ある （計）
	何度も あった	1,2度 あった			
大声でどなられる	15.4	23.7	57.8	3.1	39.1
	11.0	16.6	69.5	2.9	17.6
「だれのおかげで生活できるんだ」 とか「かいしょうなし」などと言われる	7.8	11.9	78.0	2.4	19.7
	1.5	8.1	88.4	2.0	9.6
交友関係や行き先、電話やメールなどを 必要以上に、細かく監視されたり、 連絡を制限される	6.3	8.9	81.9	3.0	15.2
	3.2	6.1	88.7	2.0	9.3
家計に必要な生活費を渡してくれない	7.0	5.6	84.3	3.1	12.6
	1.5	4.0	87.7	3.3	5.5
何を言っても長時間、無視され続ける	5.6	10.6	80.9	3.0	16.2
	4.1	10.2	83.4	2.3	14.3
あなたは見たくないのに、ポルノビデオ やポルノ雑誌を見せられる	0.7	3.1	93.3	2.8	3.8
	0.0	0.0	97.7	2.3	0.0
あなたがいやがっているのに、 性的な行為を強要される	6.3	9.1	81.3	2.0	15.4
	0.6	1.2	96.2	2.0	1.8
なぐるふりや、 刃物でおどされる	2.4	4.1	90.7	2.8	6.4
	1.2	2.3	94.2	2.3	3.5
平手でうつ、なぐる、足でけるなどの 暴行を受ける	2.8	8.3	85.7	3.1	11.1
	1.5	4.1	92.7	1.7	5.6
子どもの前で 暴力をふるわれる	1.9	3.7	90.9	3.5	5.6
	0.9	1.2	94.8	3.2	2.1
その他	2.4	0.2	0.0	97.4	2.6
	0.9	0.3	0.0	98.8	1.2

性別で見ると、女性では「大声でどなられる」について、「経験がある（計）」が39.1%を占めており、そのうちの15.4%が「何度もあった」と回答している。

全体を見ても、「経験がある（計）」の内の一定数は「何度もあった」と回答していることから、1度あった行為が、何度も繰り返されている現状が読み取れる。

(問20で「何度もあった」か「1、2度あった」に1つでも○があった方に)

問 20-1 そのことを、誰かに相談しましたか。(○は1つ)

[%]

	全体 (349)	女性 (240)	男性 (106)
相談した	17.2	22.5	5.7
相談したかったが、相談しなかった	11.2	13.8	5.7
相談しようと思わなかった	64.5	57.1	81.1
どうしていいかわからなかった	7.2	6.7	7.5
相談しなかった (計)	82.9	77.6	94.3

「相談した」は全体で17.2%である。一方、「相談しなかった (計)」は82.9%と高く、抱え込んでいる人が多いことが読み取れる。それは男性により顕著であり、94.3%が相談していない現状である。

前回調査と比較すると「相談しなかった (計)」は (全体：69.0%→82.9%、女性：62.9%→77.6%、男性：79.2%→94.3%) となっている。

[性・年代別]

上段：女性 [%]

下段：男性 [%]

(n= 349)	全体	10 歳代	20 歳代	30 歳代	40 歳代	50 歳代	60 歳代
相談した	22.5 5.7	33.3 0.0	33.3 20.0	21.4 7.7	22.2 0.0	26.0 7.1	17.5 5.6
相談したかったが、 相談しなかった	13.8 5.7	67.7 0.0	0.0 0.0	10.7 7.7	15.9 8.7	10.4 3.6	15.9 5.6
相談しようと思わなかった	57.1 81.1	0.0 100	50.0 60.0	50.0 84.6	60.3 73.9	58.4 85.7	58.7 83.3
どうしていいかわからなかった	6.7 7.5	0.0 0.0	16.7 20.0	17.9 0.0	1.6 17.4	5.2 3.6	7.9 5.6
相談しなかった (計)	77.6 94.3	67.7 100	66.7 80.0	78.6 92.3	77.8 100	74.0 92.9	82.5 94.4

(問20—1で「相談した」とお答えの方に)

問 20—1—1 実際に、誰(どこ)に相談しましたか。(〇はいくつでも)

[%]

	全体 (60)	女性 (54)	男性 (6)
親族	56.7	55.6	66.7
役所の相談窓口・電話相談など	20.0	22.2	0.0
友人、知人	56.7	57.4	50.0
医師、カウンセラー	8.3	9.3	0.0
家庭裁判所、弁護士など	15.0	14.8	16.7
民生委員、人権擁護委員等	1.7	1.9	0.0
警察署	6.7	7.4	0.0
その他	1.7	1.9	0.0

「親族」(56.7%)と「友人・知人」(56.7%)の身近な人に集中している。
性別で見ると、女性では「友人・知人」(57.4%)、男性では「親族」(66.7%)が最も多くなっている。

(問20-1で「相談しなかったが～」か「相談しよう」とお答えの方に)

問20-1-2 「誰(どこ)にも相談しなかった」のは、なぜですか。(〇はいくつでも)

[%]

	全体 (264)	女性 (170)	男性 (92)
誰(どこ)に相談してよいか、わからなかった	5.7	7.1	3.3
相談する人がいなかった	9.1	10.6	6.5
恥ずかしくて誰にもいえなかった	9.8	11.2	7.9
相談しても無駄だと思った	27.7	31.2	20.7
相談したことがわかると、 自分や子どもに危害が及ぶと思った	3.0	3.5	2.2
自分さえ我慢すれば、 このままやっていけると思った	15.2	14.7	16.3
他人に迷惑をかけたくなかった	10.2	10.0	10.9
自分にも落ち度があると思った	26.9	21.2	38.0
相談するほどのことではないと思った	53.4	50.0	58.7
その他	9.1	9.4	7.6

「相談するほどのことではないと思った」が53.4%で最も高く、以下、「相談しても無駄だと思った」(27.7%)、「自分にも落ち度があると思った」(26.9%)の順で続いている。

問21 あなたは、ドメスティック・バイオレンス（DV）の防止および被害者支援のために、どのような対策が重要だと思いますか。（〇はいくつでも）

[%]

	全体	女性	男性
家庭内や恋人間でも暴力は犯罪であるという意識の啓発	68.3	73.1	62.5
いざというときに駆け込める緊急避難場所（シェルター）の整備	68.3	71.7	65.1
緊急時の相談体制の充実	62.1	63.1	63.4
住居や就労の斡旋、経済的援助など、自立して生活するための支援策の充実	52.1	57.4	45.1
カウンセリングや日常的な相談など、精神的に自立するための支援策の充実	47.1	51.5	42.2
関係機関の紹介や暴力への対応方法など、DVに関するいろいろな知識の提供	37.3	39.3	35.2
離婚訴訟への支援や養育費の請求など、法的なサポートの充実	48.7	52.0	44.2
カウンセリングなど、加害者の更生に関する対応の充実	32.6	36.1	27.9
家庭や学校において、子どもに対し暴力がいけない事だと教える	51.2	55.4	46.2
身近でパートナーによる暴力に気付いたら、周囲の人が通報することが大切である、という意識づくり	40.8	43.1	39.0
その他	3.6	3.1	4.1
わからない	3.5	1.9	6.1

「家庭内や恋人間でも暴力は犯罪であるという意識の啓発」と「いざというときに駆け込める緊急避難場所（シェルター）の整備」が68.3%と最も高く、以下、「緊急時の相談体制の充実」（62.1%）の順で続いている。この3項目に関しては、前回調査でも高い項目だった。

※ドメスティック・バイオレンス（DV）：パートナー（事実上婚姻関係と同様の事情にある者を含む）またはパートナーであった者から振るわれる暴力。

[性・年代別]

上段：女性 [%]
下段：男性 [%]

	全体	10 歳代	20 歳代	30 歳代	40 歳代	50 歳代	60 歳代
家庭内や恋人間でも暴力は犯罪である という意識の啓発	73.1 62.5	58.8 37.5	66.7 70.0	69.9 60.5	71.9 56.2	76.2 64.5	76.4 65.8
いざというときに駆け込める 緊急避難場所（シェルター）の整備	71.7 65.1	52.9 25.0	76.9 76.7	80.8 67.4	70.2 58.9	70.1 67.1	71.6 66.7
緊急時の相談体制の充実	63.1 63.4	47.1 37.5	61.5 83.3	56.2 46.5	62.3 60.3	68.7 64.5	64.2 67.5
住居や就労の斡旋、経済的援助など、 自立して生活するための支援策の充実	57.4 45.1	52.9 37.5	53.8 56.7	57.5 37.2	53.5 45.2	63.9 42.1	55.4 47.4
カウンセリングや日常的な相談など、 精神的に自立するための支援策の充実	51.5 42.2	47.1 12.5	48.7 50.0	52.1 32.6	48.2 38.4	55.8 43.4	50.7 47.4
関係機関の紹介や暴力への対応方法など、 DVに関するいろいろな知識の提供	39.3 35.2	35.3 25.0	51.3 50.0	39.7 30.2	33.3 39.7	43.5 27.6	37.2 36.0
離婚訴訟への支援や養育費の請求など、法的 なサポートの充実	52.0 44.2	64.7 12.5	53.8 53.3	58.9 48.8	54.4 38.4	57.1 43.4	40.5 46.5
カウンセリングなど、 加害者の更生に関する対応の充実	36.1 27.9	35.3 25.0	41.0 40.0	34.2 23.3	38.6 24.7	36.1 27.6	34.5 28.9
家庭や学校において、 子どもに対し暴力がいけない事だと教える	55.4 46.2	35.3 37.5	51.3 66.7	56.2 39.5	61.4 45.2	53.7 40.8	55.4 48.2
身近でパートナーによる暴力に気付いたら、 周囲の人が通報することが大切である、 という意識づくり	43.1 39.0	41.2 37.5	66.7 56.7	41.1 48.8	40.4 35.6	46.9 35.5	37.2 35.1
その他	3.1 4.1	0.0 0.0	7.7 3.3	1.4 4.7	7.0 5.5	2.7 1.3	0.7 5.3
わからない	1.9 6.1	11.8 25.0	5.1 3.3	1.4 9.3	1.8 5.5	0.7 9.2	1.4 2.6

女性の場合、40 歳代、50 歳代、60 歳代で「家庭内や恋人間でも暴力は犯罪であるという意識の啓発」がそれぞれ 71.9%、76.2%、76.4%となっている。また、10 歳代以外では「いざというときに駆け込める緊急避難場所（シェルター）の整備」も 7 割以上となっている。

7 男女平等参画施策について

問22 PTA会長や自治会長、議会や審議会・委員会等の政治分野や方針を決定する過程において、女性の参画が少ないのはなぜだと思いますか。(〇はいくつでも)

[%]

	全体	女性	男性
男性が担うのが社会慣行だから	40.9	40.7	41.6
女性は家事・育児が忙しいから	41.2	44.3	38.7
家族の支援・協力が得られないから	28.0	30.6	24.7
指導力のある女性が少ないから	22.8	25.4	19.5
女性側の積極性が足りないから	26.9	26.5	28.8
女性がリーダーになることに抵抗があるから	25.2	27.0	21.8
その他	8.8	8.3	8.4
無回答	0.0	0.0	0.0

理由としては、「女性は家事・育児が忙しいから」が41.2%であり、「男性が担うのが社会慣行だから」(40.9%)とこの2項目が特に高くなっている。

[性・年代別]

上段：女性 [%]

下段：男性 [%]

	全体	10 歳代	20 歳代	30 歳代	40 歳代	50 歳代	60 歳代
男性が担うのが社会慣行だから	40.7	64.7	46.2	30.1	44.7	40.1	39.9
	41.6	50.0	36.7	46.5	38.4	35.5	46.5
女性は家事・育児が忙しいから	44.3	29.4	59.0	45.2	47.4	37.4	45.9
	38.7	12.5	46.7	34.9	43.8	42.1	34.2
家族の支援・協力が得られないから	30.6	11.8	28.2	45.2	22.8	27.9	35.1
	24.7	25.0	13.3	30.2	19.2	27.6	27.2
指導力のある女性が少ないから	25.4	11.8	15.4	20.5	27.2	25.9	30.4
	19.5	0.0	30.0	11.6	21.9	21.1	18.4
女性側の積極性が足りないから	26.5	11.8	20.5	20.5	17.5	24.5	41.2
	28.8	12.5	26.7	11.6	19.2	31.6	41.2
女性がリーダーになることに抵抗があるから	27.0	23.5	28.2	34.2	21.2	29.9	25.0
	21.8	12.5	23.3	14.0	15.1	31.6	22.8
その他	8.3	5.9	12.8	8.2	12.3	7.5	5.4
	8.4	25.0	10.0	11.6	13.7	2.6	6.1
無回答	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0

女性の場合、30 歳代で「家族の支援・協力が得られないから」が 45.2%。また、60 歳代で「女性側の積極性が足りないから」が 41.2%と、他の年代と比較すると差が大きい。

性別問わず、10 歳代で「男性が担うのが社会慣行だから」が 64.7%、50.0%と、他の年代より高くなっている。

問23 男女平等参画社会の実現のための推進事業や、団体・事業者の方々を支援するための拠点施設として、男女平等参画推進センター（レイクピアウスイ3階）を設置しています。あなたは、男女平等参画推進センターの施設や講座などを利用していますか。（〇は1つ）

[%]

		全体	女性	男性
利用している（計）	よく利用している	0.1	0.0	0.0
	利用したことがある	2.8	3.9	1.2
利用したことがない（計）	知っているが、利用したことはない	25.4	29.4	20.6
	知らない	64.2	59.4	72.7
知らないが、今後利用してみたい		5.2	5.4	4.9
その他		0.4	0.4	0.0
利用している（計）		3.9	3.9	1.2
利用したことがない（計）		94.8	94.2	98.2

※男女平等参画推進センター（ミウズ）とは

男女が社会の対等な構成員として、あらゆる分野における活動に共に参画する社会を形成するための活動拠点です。男女平等参画推進のための啓発、講座・講演会等の開催や、図書の貸出等の情報提供、女性のための相談の実施、学習室の貸出などを行っています。

問24 男女平等参画社会づくりを進めるために、佐倉市にどのような施策を期待しますか。

(〇はいくつでも)

[%]

	全体	女性	男性
市の審議会や委員会など、市の政策方針決定の場へ女性登用の推進	39.1	39.4	40.1
各種団体などの女性リーダーの養成	32.0	29.4	37.2
幼児教育や学校教育において、男女平等意識の育成	49.6	54.4	43.9
男女平等に関する法律や制度について情報提供の充実	30.2	32.4	28.2
ボランティア活動・NPO活動の充実	14.3	13.0	16.9
仕事と家庭、地域活動、趣味・娯楽などの両立支援	42.8	44.4	42.2
女性の再就職・起業など自立支援のための教育・学習機会の充実	43.9	47.8	40.4
男性の家事・育児・介護などへの参加促進にむけた情報提供や学習機会の充実	37.7	41.5	33.1
子育てをしやすい環境整備	62.4	66.3	59.0
高齢者・障害者の介護に関する情報提供	31.9	34.6	28.8
職場における、男女の均等な取扱についての周知徹底	29.5	30.7	28.2
自営業や家族従業者（農業を含む）へのワーク・ライフ・バランスの啓発	17.9	18.3	17.4
市職員の男女平等意識の推進	24.0	24.3	24.1
性教育・性に関する学習機会の充実	23.6	24.8	22.4
健康診断・生活習慣病予防など健康管理対策の充実	19.8	20.4	19.8
パートナーに対する暴力の防止対策の充実	21.5	21.1	23.0
男女平等参画の視点からの防災対策	12.4	12.4	11.9
女性からの相談体制の強化	22.3	22.4	23.0
男性からの相談体制の整備	17.2	16.3	18.9
男女平等参画推進センターの充実	14.0	13.1	15.7
その他	2.1	1.9	2.3
特になし	6.1	4.1	9.6

「子育てをしやすい環境整備」が62.4%と、他の施策と比較し非常に高くなっている。以下、「幼児教育や学校教育において、男女平等意識の育成」(49.6%)、「女性の再就職・起業など自立支援のための教育・学習機会の充実」(43.9%)の順に高くなっている。

前回調査と比べると、「女性の再就職・起業など自立支援のための教育・学習機会の充実」が32.6%→43.9%と大きな上昇となった。

[性・年代別]

上段：女性 [%]

下段：男性 [%]

	全体	10 歳代	20 歳代	30 歳代	40 歳代	50 歳代	60 歳代
市の審議会や委員会など、 市の政策方針決定の場へ女性登用の推進	39.4	29.4	35.9	35.6	36.8	38.1	47.3
	40.1	50.0	33.3	37.2	34.2	34.2	50.0
各種団体などの女性リーダーの養成	29.4	11.8	33.3	30.1	25.4	29.3	33.8
	37.2	37.5	30.0	30.2	27.4	34.2	50.0
幼児教育や学校教育において、 男女平等意識の育成	54.4	52.9	53.8	54.8	49.1	58.5	54.7
	43.9	50.0	63.3	41.9	45.2	34.2	44.7
男女平等に関する法律や 制度について情報提供の充実	32.4	23.5	41.0	34.2	25.4	32.0	36.5
	28.2	12.5	33.3	23.3	30.1	22.4	32.5
ボランティア活動・NPO活動の充実	13.0	23.5	7.7	13.7	12.3	8.8	17.6
	16.9	12.5	26.7	11.6	11.0	18.4	19.3
仕事と家庭、地域活動、 趣味・娯楽などの両立支援	44.4	52.9	64.8	64.4	43.0	37.4	36.5
	42.2	37.5	76.7	53.5	41.1	38.2	32.5
女性の再就職・起業など 自立支援のための教育・学習機会の充実	47.8	52.9	71.8	47.9	49.1	49.0	39.2
	40.4	37.5	53.3	51.2	32.9	36.8	40.4
男性の家事・育児・介護などへの 参加促進にむけた情報提供や学習機会の充実	41.5	35.3	51.3	41.1	41.2	38.1	43.2
	33.1	37.5	60.0	32.6	28.8	25.0	34.2
子育てをしやすい環境整備	66.3	82.4	76.9	71.2	64.9	59.9	66.9
	59.0	50.0	73.3	72.1	54.8	56.6	55.3
高齢者・障害者の介護に関する情報提供	34.6	29.4	25.6	30.1	23.7	42.2	40.5
	28.8	12.5	36.7	23.3	26.0	27.6	32.5
職場における、 男女の均等な取扱についての周知徹底	30.7	29.4	30.8	27.4	28.1	31.3	34.5
	28.2	25.0	33.3	30.2	24.7	27.6	28.9
自営業や家族従業者（農業を含む）への ワーク・ライフ・バランスの啓発	18.3	17.6	30.8	24.7	21.1	12.9	15.5
	17.4	25.0	20.0	18.6	12.3	19.7	17.5
市職員の男女平等意識の推進	24.3	23.5	25.6	23.3	24.6	21.8	26.4
	24.1	25.0	36.7	20.9	19.2	18.4	28.9
性教育・性に関する学習機会の充実	24.8	41.2	30.8	35.6	25.4	23.1	17.6
	22.4	50.0	46.7	25.6	19.2	14.5	20.2
健康診断・生活習慣病予防など 健康管理対策の充実	20.4	11.8	30.8	20.5	19.3	22.4	16.9
	19.8	25.0	36.7	18.6	15.1	18.4	19.3
パートナーに対する暴力の防止対策の充実	21.1	29.4	33.3	21.9	25.4	18.4	16.2
	23.0	37.5	33.3	20.9	21.9	19.7	22.8
男女平等参画の視点からの防災対策	12.4	11.8	20.5	16.4	13.2	10.2	10.1
	11.9	12.5	13.3	9.3	9.6	10.5	14.9
女性からの相談体制の強化	22.4	35.3	35.9	26.0	26.3	18.4	16.9
	23.0	37.5	43.3	16.3	16.4	18.4	26.3
男性からの相談体制の整備	16.3	35.3	35.9	20.5	20.2	11.6	8.8
	18.9	37.5	36.7	18.6	20.5	11.8	16.7
男女平等参画推進センターの充実	13.1	23.5	12.8	12.3	14.9	13.6	10.8
	15.7	0.0	26.7	4.7	9.6	17.1	21.1
その他	1.9	0.0	2.6	0.0	4.4	1.4	1.4
	2.3	0.0	0.0	2.3	5.5	1.3	1.8
特になし	4.1	0.0	2.6	8.2	6.1	3.4	2.0
	9.6	12.5	6.7	9.3	6.8	17.1	7.0

女性の場合、10 歳代、20 歳代、30 歳代で「子育てをしやすい環境整備」がそれぞれ 82.4%、76.9%、71.2%と、他の年代よりも高くなっている。一方、50 歳代、60 歳代で、「高齢者・障害者の介護に関する情報提供」が、それぞれ 42.2%、40.5%と他の年代よりも高くなっている。

前回同様、本人にかかわる項目において回答が多い傾向にあった。どの年代にとっても男女平等な社会の形成には、幅広い分野からのアプローチが必要である。